

学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解

科目コード：120103

# 人間機能学Ⅲ（演習・実験） Laboratory Work on Human Body

担当教員	市丸 徹 長谷川 昇				
実務経験					
開講年次	1年次後期	単位数	1	授業形態	実習・演習
必修・選択	必修	時間数	45		
Keywords	解剖学、生理学、生化学				
学習目的・目標	人間機能学Ⅰ（解剖生理学）、人間機能学Ⅱ（生化学）の講義・演習から得た知識をより深く理解するための実習・演習を行います。まとめ・演習回では、実験結果や考察を学生どうしでまとめて発表し、討論します。 【目的】自分の身体や生体材料などを用いた演習・実験を通して、生命現象に対する理解を深める。【目標】 1. 全員が実習に参加し、自分の知識を再確認する。 2. 解剖・生理学の基礎的な実験手技を習得する。 3. 実験結果のまとめ方とプレゼンテーションの仕方を学ぶ。				
授業計画・内容	回 内容 1 オリエンテーション・説明（1） 2 血圧・感覚実習 3 心電図・肺機能実習 4 まとめ・演習（1） 5 説明（2） 6 血液・浸透圧実験 7 酸塩基平衡実験 8 まとめ・演習（2） 9 説明（3） 10 体表解剖学演習 11 ラット解剖実習 12 まとめ・演習（3） ※ 各回の講義時間は2コマ分です。  ※ 予定は都合により変更となる可能性があります。				
教科書	実習の手引きを各説明回で配布する予定です。この手引きに従って授業をすすめます。 実習開始までに白衣を用意して下さい。白衣に関して10月に共同購入の機会があります。				
参考図書等					
評価指標	成績評価対象者：出席2/3以上。レポート提出者（各まとめ・演習回にレポートを回収）。 出席50%、レポート50%で評価します。レポートは必ず提出して下さい。未提出でも督促はしません。また実習への参加を重視しています。基本的には全出席してください。実習欠席者には補習、追加レポート、面談等を課しますので、自ら教員まで申し出てください。連絡がない者、およびレポート未提出者は単位が認定されない場合があります。				
関連科目	人間機能学Ⅰ、人間機能学Ⅱ、疾病障害論、人間病態学、他多数				
教員から学生へのメッセージ	実習・演習においては、自分自身の手を動かし、頭で考え工夫することにより真の知識が身につきます。参加して実行することが重要です。レポート提出のためのレポートにならないようにしましょう。事前に実習の手引きの当日分を必ず予習しておいてください。実験では、必ずしも教科書どおりの結果になるとは限りません。しかし、そのような結果にも理由があるはずで、過程を大事にして、そこから学ぶことを忘れないでください。				